

# 宮島沼

宮島沼の会事務局



〒072-0057

美唄市西美唄町大曲3区

電話:0126-66-5066

ファックス:0126-66-5067

メール:mwwc@dune.ocn.ne.jp

## マガンレンジャー☆宮島沼キャンプ！！

宮島沼の会が主催する子ども向け体験学習講座「マガレンジャー」キャンプが行われました。今年の参加者は小学校3年生からリーダー役の中学校1年生の11人。特別講師として酪農学園大学非常勤講師で「お魚博士」の桑原さんを迎えての開催です。

初日のテーマは、宮島沼でもようやく本格的な調査が始まった「魚」。先日は駐車場横の水路で移入種ドイツゴイが見つかったばかり。なんだか新しい発見がありそうな予感です。子供たちは網を手に宮島沼や周辺水路を探索し、見つけた生き物をじっくりと観察しました。子供たちによるオリジナル図鑑もできたので、ぜひ見にいらしてください。その後スタッフ手作りのカレーを食べて、ドラム缶風呂に入り、スイカを食べました。夜、あれだけ遊んだのになかなか寝付かない子供たち。クールダウンできるプログラムが必要だったかもしれません…。

翌日は朝食作りからスタート。火をおこし石釜を暖め、自らピザを焼きます。多少見た目は不恰好でも、地元産食材を使った焼きたてのピザは文句なしにおいしかったみたいです。

最後はカヌーで宮島沼に漕ぎ出し、ヒシを採取しました。バランスをとるのも難しく、風に流される中、なかなかうまく操船していたのが印象的でした。採取したヒシは来館者に配布するクラフトにしたてようという狙いだったのですが、少し時間が足りませんでした。

一泊二日の日程でしたが内容盛りだくさんで子供たちも楽しんでくれたようです。カヌーを貸していただいた「中村ワーク」のみなさま、お手伝いいただいた桑原さんを始め、センターボランティア、市役所環境課のみなさま、本当にありがとうございました。

次回は10月11日の「マガン調査」です！マガレンジャーはまだまだ隊員募集中ですので、ぜひ周りの方々に宣伝してください。



## 特集

## 宮島沼の夏鳥

## ● 取り残された鳥たち

本来ロシアなどで繁殖する渡り鳥が、何らかの理由でとどまり、宮島沼で夏を越すことがあります。今年はマガンが数羽、そして途中から姿を見ませんでした。取り残されたようなオナガガモやヒドリガモもいました。



## ● 繁殖する鳥たち

宮島沼で繁殖する鳥の主役は、オオヨシキリ、コヨシキリ、オオジュリン、ノビタキなどの草原性の小鳥達。それらに託卵する機会を臨んでいるのはカッコウ。周辺農地ではヒバリやカルガモ、防風林や疎林ではハシボソガラス、トビ、ムクドリ、コムクドリ、モズ、アリスイ、アカゲラ、エゾセンニュウ、アカハラ、カワラヒワなどが繁殖します。アオサギのコロニーもあります。これらは比較的普通に見られる鳥ですが、オオタカ、ハイタカ、チゴハヤブサ、チュウヒ、オオジシギ、イソシギ、ホオアカ、ベニマシコ、ノゴマなども近くで繁殖します。



一方、宮島沼で繁殖する水鳥は意外といません。周辺の湖沼では、水草で浮き巣を作るカイツブリ、アカエリカイツブリ、バンなどを見るのですが、宮島沼には水草が少ないからかもしれません。つい最近、近所の方が「足が長くてカモよりだいぶ小さい鳥が、雛を連れて宮島沼のヨシ原に入っていった」と教えてくれましたが、いったい何の鳥だったのでしょいか…。気になります。



## ● 繁殖した後集まる鳥たち

7月も終わりに近づくと、突如宮島沼に現れる鳥もいます。ショウドウツバメ、カワセミ、アオバトです。ショウドウツバメとカワセミは水辺に近い土の崖に巣穴を掘る鳥なので、石狩川沿いのどこかで繁殖しているのでしょうか。アオバトは森林性の鳥ですが、繁殖が終わると平地に現れニワトコの実などを食べます。アオバトは「アーオー、オアーオ」などもの悲しげな声で鳴き、数羽から数十羽の群れをつくり、ショウドウツバメは時に数百羽の集団で宮島沼上空を飛び回ります。また、この時期、カルガモも周囲に分散していたものが集まってきました。



このように、夏でも宮島沼にはたくさんの鳥がいます。コウホネなどの水草が増えれば間違いなくカイツブリやバンも営巣するでしょうし、今年はタンチョウも近くにやってきたので、環境が整えば営巣も考えられます。また、ヨシ帯の乾燥化が進めば草原性の小鳥に影響が出てくるでしょうが、反対に増える鳥も出てくるかもしれません。今後ともモニタリングを継続していく必要があります。



上から、翼を負傷したマガン、渡来したてのオオジュリン、目の開いていないアオジの雛、ノビタキの巣立ち雛、モズの巣立ち雛

元沼守人の 沼の見聞録 その三

## ヌマタロウ

草野 貞弘

20線は14号と15号の間で、道路が少し折れて曲がっています。

「少し前までは、あそこに沼があつてな、そう、1反歩ほどもあつたかな。小さくて深くて長く伸びていたな。尻は15号を越えて手形沼の方に連なっているみたいに見えていたね。」

「ここには、マガモ・カルガモ・アオサギなどがよくついていたな。秋になるとヌマタロウも寄るんだよ。そうか、正式にはオオヒシクイという名前かね。黒くて大きいんだ。こいつたち、とても警戒心が強くてね。見つからんように葦などで隠れ屋をつくっておくのさ。うまく撃ち落したらそれからが大変、背が立たない深い沼だから泳いで獲物を拾うのさ。」

「おおきかったなあ、首を持って肩に担ぐと、脚が下に着くほどのやつだったよ」

1983年12月6日

上美唄 故 新関 新三氏から



【上】かつて沼があったであろう場所。左側の道路(15号)を越えて、いくつかの小沼を経て左下の手形沼につながっていたという。写真は昭和51年撮影(国土画像観覧システムより)。  
【左】オオヒシクイ。沼や川の浅瀬でマコモやヒシを食べる。一日中水辺に留まることから古くは「ヌマタロウ」「ヤチヒシクイ」と呼び、マガンや亜種ヒシクイと区別していた。

イシカリ川流域湖沼群探検隊③

## 三角沼 (岩見沢市)

宮島沼から南へ約2キロ。周囲に一般道はなく、農地の真ん中にある小さな沼です。北に丸沼、東にコンペイトウ沼があります。丸沼は廃棄物の埋め立てによって消失し、コンペイトウ沼も排水されて消失寸前です(写真)。そんな中、三角沼は近くに大きな水路等もなく、かつての形状に近い形で残されています。

周囲は水田が半分くらい、残りは小麦や大豆が作付けされています。一部の水田では畦にハーブ(アップルミント)が植栽されていました。周辺農地から用排水が流入する小水路や排出口がいくつかあり、東側に流出する小水路が一本あります。流出口には水門等もなく、自然にあふれ出ているようです。

周囲にはヨシやフトイが生え、水面にはヒシ、コウホネ、ヒツジグサなどが花を咲かせます。水際には藻類など沈水植物も生え、水質も比較的良好です。ただ、南側からオオハンゴンソウやオオアワダチソウなどの群落が進出し、少し乾燥化が進んでいる印象を受けました。

渡りの時期にはマガンのねぐらや日中の休息場所としても利用されます。オオハクチョウ・コハクチョウの他、トモエガモなど希少な種を含むカモ類が利用し、春にはオジロワシやオオワシなども集まります。キンクロハジロ、ミコアイサ、スズガモなど潜水性のカモが多いのも特徴で、今年はアカエリカイツブリが越夏しました。周りのヨシ群落にはコヨシキリ、ノビタキ、オオジュリンなど夏鳥も多く、オオジシギが繁殖し、タンチョウも周辺の水田にしばらく居つくなど、鳥類にとって貴重な場所です。

周辺では小麦食害が深刻で地域住民からの印象が悪く、徐々に進行する富栄養化と乾燥化、そして秋には狩猟が行われることなどが課題としてあげられます。



昭和51年の三角沼、丸沼(左上)、コンペイトウ沼(右)。国土画像観覧システムより。



2000年代(?)の三角沼、丸沼、コンペイトウ沼。Google Earthより。



ヨシの水際には藻類が生え、透明度もある。周辺の畑地化による富栄養化が心配。



アカエリカイツブリの浮き巣。魚類も豊富で人目につかない沼。



西側から沼を一望できる。狩猟の場所となっているのが周囲に藁きょうが散在する。

## 報告

## 平成20年度 宮島沼の会総会

新緑香る6月15日、平成20年度総会が開催されました。参加者は6名と少しさみしかったのですが、スライドショー形式で一年の活動を振り返るなど新しい試みもあり、活発な議論もできました。

その後開催された役員会で総会を振り返り、総会を盛り上げる方法なども議論しました。来年度は、一年間の宮島沼の自然、人々の活動を振り返るスライドショーの充実や、ミニ講演会などを同時に開催することにしました。

会員が交流を深めるいい機会にしたいと思いますので、ぜひご参加ください。



## 報告

## 北海道ラムサールネットワーク総会 in 野付

道内12サイトのラムサール湿地の現場で活躍するNGOや施設で構成される北海道ラムサールネットワーク(HRN)の総会が野付半島(別海町)で開催されました。同時開催されたラムサール子ども交流会に参加した西美唄小学校の子どもたち4名と参加しました。

朝5時に美唄を出発して約7時間。子どもたちは交流会の午前中のプログラムの最後から合流し、午後には観光船に乗って野付半島に出かけていきました。

大人は午後からHRN主催の講演会、そして総会に参加です。講演会は、COP10に向けての話題を辻井先生から、海外の湿地を一年かけて視察してきた成果を霧多布湿原センターの伊藤さんから、そしてセイヨウオオマルハナバチの現状などについて北海道新聞の山本さんから何うという豪華3本立てでした。

総会は、昨年度の事業報告(看板やHPの製作等)、今年度の事業計画(パネルの製作←予算はなかったけど北海道が協力してくれることに!)などのほか、鳥インフルエンザの対策についても話し合いました。また、来年度の総会はクッチャロ湖(浜頓別町)で開催されることになりました。

翌日のエクスカッションでは、残念ながら濃霧のため観光船には乗れませんでした。野付半島ネイチャーセンター付近のガイドウォークなどを楽しむことができました。

すべてのプログラムが終わって子どもたちを迎えにいくと、なんと潮干狩りの真っ最中。バケツいっぱいのおサリをおすそ分けしてもらい、濤沸湖に寄って、また7時間。北海道は広いですね…。



## 高病原性鳥インフルエンザについて 【何が問題なのか！？】

前号では、高病原性鳥インフルエンザ（HPAI）が今年の春に東北と道東で発生した経緯についてご紹介しました。その後いくつか動きがありましたので、まずご紹介します。

HPAIの国内での拡大について、前号では渡り鳥だけではなく人が媒介している可能性についても検討したほうがよいと述べましたが、環境省の感染経路等調査ワーキンググループは、今回は『渡り鳥のカモが国内にウイルスを持ち込んだ可能性があり、人間が感染拡大に関与した可能性は低い』との見解を示しました。といってもその内情は「どっちかといったら野鳥のほうが可能性が高い」というレベルで、まだ確証があるわけではありません。また、環境省は、これまで冬期に西日本で行ってきた野鳥のふんの調査を、範囲と期間を拡大して実施するそうです。

国際的な動きとしては、ラムサール条約の科学技術検討委員会が、渡り鳥の監視強化と家禽の隔離などを軸としたHPAIに関する決議案をまとめ、今秋韓国で開催される締約国会議に提出する運びです。別件ですが、今年の締約国会議には水田の生物多様性や文化的価値に関する決議も提出されるため、これらの決議を受けて、国内の動きにどう結びつけるかが注目されます。

一方、ウイルスの増殖を抑えるのに重要なたんぱく質の立体構造が解明されるなど、いくつか新しい疫学的な知見も得られています。ただ、野外でのHPAIの拡大要因やその対策となると、やはりまだ不透明なことだらけ。環境省のサイトも見ても新しい情報はなく、これからの渡り鳥シーズンをどう迎えればいいのか不安視されます。

現場での対応を考える際に、まず知っておきたいのは、HPAIと「新型インフルエンザ」は別物だということです。HPAIは、カモやアヒルなどの水禽類が保有しているとされる鳥インフルエンザウイルスの一種で、鶏などが感染すると高い病原性を示すものです。感染した鳥やそれらの排泄物を通じてウイルスに濃厚に暴露されると、まれに人も感染することがあります。人から人への感染については、疑わしき事例が数例報告されていますが、いずれも日本と韓国で発生したHPAIとは別タイプのウイルスに関するものです。

対して「新型インフルエンザ」とは、鳥のインフルエンザウイルスが変異して発生する可能性が危惧されているものです。容易に人から人へ感染するものであり、人類のほとんどが免疫を持っていないために世界的な大流行が引き起こされ、大きな健康被害とこれに伴う社会的影響が懸念されています。

このように、HPAIはまだ完全に人の病気ではなく、鳥の病気です。HPAIと聞くとまず人への感染を不安視しがちですが、現場での対応を考える際には、よっぽどのがない限り感染の危険性はないこと、その「よっぽど」の可能性を排除するために野鳥との不必要な接触は避けることをきちんと理解し、伝える必要があります。

現実的な問題としてより脅威となるのは、実は風評被害、家畜への感染拡大、そして野鳥の大量死でしょうか。こうしたことを防ぐためには何ができるのでしょうか？また、その可能性は？？次号に続きます。

### ●お問い合わせ、ご要望は…

宮島沼の会事務局(宮島沼水鳥・湿地センター内)  
〒072-0057 美唄市西美唄町大曲3区  
電話:0126-66-5066  
ファックス:0126-66-5067  
メール:mwwc@dune.ocn.ne.jp

### ●会費、寄付金のご納入は…

郵便振替口座 02750-1-92670

### ●公式ブログは…

<http://blog.goo.ne.jp/miyajimanuma/>

### 【編集後記】

■今年はお蝶がすごいですね。今月末の大会を控え夜テニスの練習をしているのですが、照明に何万と蝶が集まり、落ちてきた蝶で足の踏み場もなく、ネットにも鈴なり状態。あちこちで悲鳴があがり、練習どころではありません…。以前クマが出没して練習できないことがありましたが、今年のほうが深刻ですね。そんな蝶も最近はやっと少なくなり、短い夏も終盤に近いと感じさせます。(ウシ)

■「宮島沼で自由研究！」ということで小学生がやって来ました。今年はなぜか「魚のことをやりたい」子供ばかり。マガレンジャーで桑原さんに習ったばかりの魚捕りの方法を伝授し、観察し、スケッチし…。同じことを行なっても出来上がったものは全然別で、それぞれ個性が出ていて面白かったです。小6女子は「解剖」に挑戦し、それを見ていた中1女子も「やりた〜い」と。女子というのは解剖が好きなんですか？！（香）